

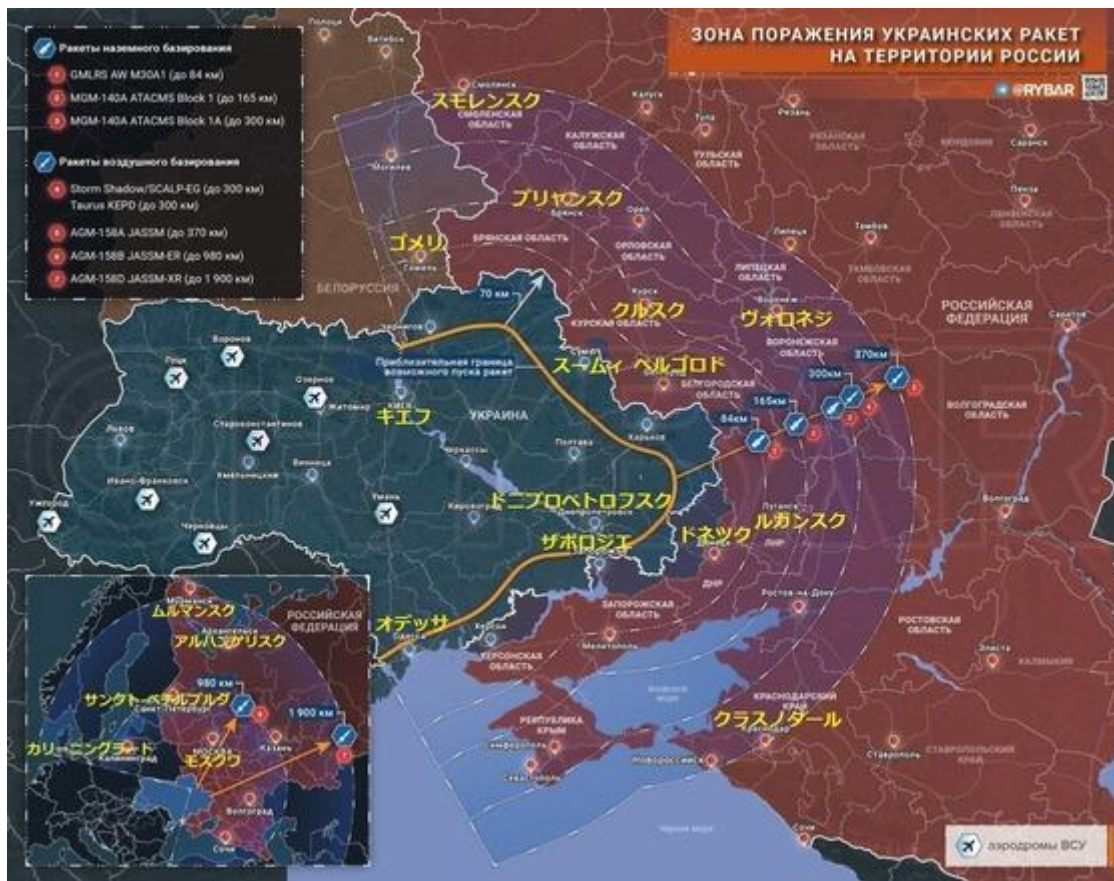
11月21日のウクライナ情報

安齋育郎

①ウクライナによる長距離ミサイルの使用許可について 露シンクタンクの見解(2024年11月18日)

バイデン政権からウクライナへの最後のプレゼントとなりそうな「長距離兵器の使用許可」ですが、大勢に影響はないという解説です。リバーと、それを引用した軍事アナリストのアンドレイ・メドベージェフ(元大統領のメドベージェフではありません)の記事を掲載します。

ただし、使用開始当初にセンセーショナルにメディアを賑わす可能性があり、その際にロシア国民は冷静であるべきとのこと。それこそが敵の狙いなので。



長距離ミサイルの使用許可について

退陣する政権に代表されるアメリカ人は、日曜の夜に静かに座っていても意味がないと判断し、旧ロシア領土での ATACMS の使用に明らかにゴーサインを出したのだから、このトピックに関するゴシップが始まったばかりのときの、9月の投稿を思い出す時が来た。

▼潜在的な脅威の観点から見ると、ATACMS は最も強力に改造された状態では 300km の距離に到達する可能性があり、司令部、飛行場、人員配置場所、負傷者がいる病院に対して脅威を生み出す。

追加の保護、特に防空システムが必要になるため、少なくとも戦術レベルの部隊は対応する必要がある。これは人間の基本的な創意工夫について話である。つまり、隊列を組んでの移動がさらに危険になることを理解する必要がある人もあるだろう。

※そしてもう一つのニュアンスは、もしワシントンが実際に弾道ミサイルの使用を許可したら、他国もアメリカに追随し、ATACMSに加えてストームシャドウと SCALP がクルスク州を飛行するだろうということだ。そしてトラスも登場するかもしれない(ショルツもドイツのオリンパスを退団寸前だ)。

そこで、地図を見てみよう。この地図には、さらに遠くまで攻撃できる JASSM 巡航ミサイルの射程もプロットされている。これは対立の程度を極限まで高めるための新たな一歩であり、結果は変わらないが、大きな問題を引き起こすことになる。

クリミアと新領土の例がその証拠である。困難が生じ、攻撃を時々は見逃した。その後、ミサイルを見逃す数は次第に少なくなり、敵は実質的な利益を得ることができなかった。

▼今のところ、私たちは沈黙を保っているホワイトハウスからの正式な承認を待つべきだ。そして、現時点でこれらすべては特に、これは NATO の紛争への参入と見なされるだろうというウラジーミル・プーチンの言葉の後、特に私たちの指導部の反応を試すもののように見える。

出展:<https://t.me/rybar/65459>

(軍事アナリストのアンドレイ・メドベージェフ)

長距離ミサイルの発射許可について。同僚の分析(上のリバー記事)に少し付け加えておきます。

・ロケットはどこを狙って飛ぶのか？はい、これまでと同じような場所です。軍の飛行場、倉庫、軍事基地、場合によっては病院も。

・なぜ「すべて以前と同じような場所」を狙うのか？何も何も新しいことは起こらなかったというのに。これらと同じミサイルで以前にも攻撃されたことがあるような場所を。クリミア、ノヴォロシア、ルガンスクやクリミアの橋を攻撃しようとしている。

・依然と状況が異なるのは、ミサイル攻撃が行われる方向においてのみです。

・私たちの防空部隊はこれらの種類の兵器に精通しています。最初に敵がどのようにして防空を突破できたか、そして遠ざかるにつれて敵が失敗することが増えたことを思い出してください。

・はい、アメリカのミサイルはイギリスやフランスのミサイルと同様に大きな危険をもたらします。しかし、彼らは撃墜する方法を知っています。多くは地元の軍指導者の決定に依存するでしょう。たとえば、軍用飛行場に航空機を配備するには、敵の新たな能力を考慮する必要があります。

・敵はさまざまな種類の武器で私たちのすべてのグループを攻撃し続けます。はい、よりシンプルですが、それでも攻撃してきます。敵はハイマース、ハンマー爆弾、無人機、そして近代化された S-200 を使用していますが、これが何らかの形で私たちの軍隊を止めたのでしょうか？

・私たちの都市に対する敵の無人機による攻撃は、一般に軍と民間当局の両方によって準備されており、緊急事態に対応するための十分に開発されたアルゴリズムとプロトコルがあります。

・私たちの防空部隊は常にスキルを学び、向上させています。ヤロスラヴリ防空学校でも、士官候補生は防空軍の経験を考慮して訓練されています。

・とても重要なこと！最初の打撃の後(そして間違いなく、これからもそうなるだろう)、信じられないほどの多幸感がウクライナの公共空間を支配することでしょう。キエフの政治家は大げさなナンセンスをたくさん話すでしょう。旧ウクライナの全領土がヒステリックに祝うでしょう。いかなる状況においても、これに注意を払うべきではありません。彼らがそこで感情の波に乗るのはこれが初めてではありません。私たちにとって、それらの上に座らないことが重要です。

・これは全体として敵対行為の結果に与える影響を最小限に抑えます。このくだらないことで私た

ちを打ち砕くのは不可能です。怖すぎる。

私たちは疑いなく勝ちます。もっと深刻な問題がありました。

私たちはすでに多くのことを経験し、克服してきたので、これにも対処するでしょう。

追伸:「自走おじさん」を笑った「専門家」たち。あなたにとってそれは面白いですか？

出展:<https://t.me/rybar/65463>

(リバー)

古い領土への長距離ミサイルによる攻撃: ミサイルの数は何発か？

「古い」ロシア領土に長距離ミサイルを発射する米国の条件だけでなく、英国とフランスが承認した条件についても、次のことを確認する必要があります。これは現実的な軍事的観点からである。

HIMARS、エイブラムス、ストームシャドウ、ATACMS の移籍中、ウクライナ人は多幸福感に満ちていたが、それも長くは続かなかった。これは真に前向きな結果には至らず、ロシア軍部隊はその都度適応した(イギリス国防省長官さえもこれを公然と認めており、どんなノウハウも 2 か月しかもたないと述べている)。

西側諸国は常に、ロシアを敗北させるためではなく、紛争を継続しロシアに限定的な損害を与えるために必要なだけの金額を、ウクライナ軍に移管してきた。

※承認が得られたとしても、状況は変わらない。それらは、これらのミサイルとシステムを所有する国によって承認された目標のみを攻撃するものである。

▼もし納得できない人が居るなら、数字の言語で話してみよう(11月の初めに、すでに概算の計算を行っている)。10月初旬のウクライナ軍の貸借対照表には次のものが含まれていた。

・ATACMS ミサイル 6 発から 8 発(斉射 1 発)。

・ストームシャドウ/スカルプ巡航ミサイル 20 発から 30 発(斉射 2 発から 3 発)。

・11月初旬、スタロコンスタンチノフで活動の増加が記録された。追加の補給を示している可能性がある。同時に、11月を通じて、これらの予備を削減するために飛行場で毎日攻撃が実施された。

※新しいロットのミサイルがいわゆるウクライナに配達されたと仮定したとしても、各タイプのミサイルは最大で数十発程度の話である。先月のロシアの攻撃の結果は不明だが、これらの積荷のうち一部は消失した可能性がある。従い、これは決して対処が難しい軍事的脅威ではない。

現在の状況は、特別軍事作戦で戦うためにわが軍が試行錯誤を経て習得した、ごく少数の馴染みのある種類の兵器を撃退することについての話である。

※そして、これは主に政治的動き(紛争が別の段階に移行する前に、一般的な利害関係の増加の一環として)と見なされるべきであり、これは明らかにトランプ政権によって、いわゆるウクライナへの直接支援の拒否の可能性をさらに正当化するために利用されるだろう。(「バイデン政権は精密兵器による攻撃さえ許可したが、ウクライナ軍は失敗した。」)

実際、トランプ政権関係者らはすでにメディアで、トランプ大統領の就任後にこの決定が覆される可能性がある」と述べている。

出展:<https://t.me/rybar/65467>

②【マリウポリ市民の話】(2024年4月24日)

—何か言いたいことは？

俺の言いたいことだって？

一ええ。

ゼレンスキーの女房と子どもらはここに来て地下室に隠れてみる。チェルムスキの子どもたちがそうしたように、水道水じゃない、下水の水を飲んでみろよ。

<https://x.com/i/status/1517912979013980162>

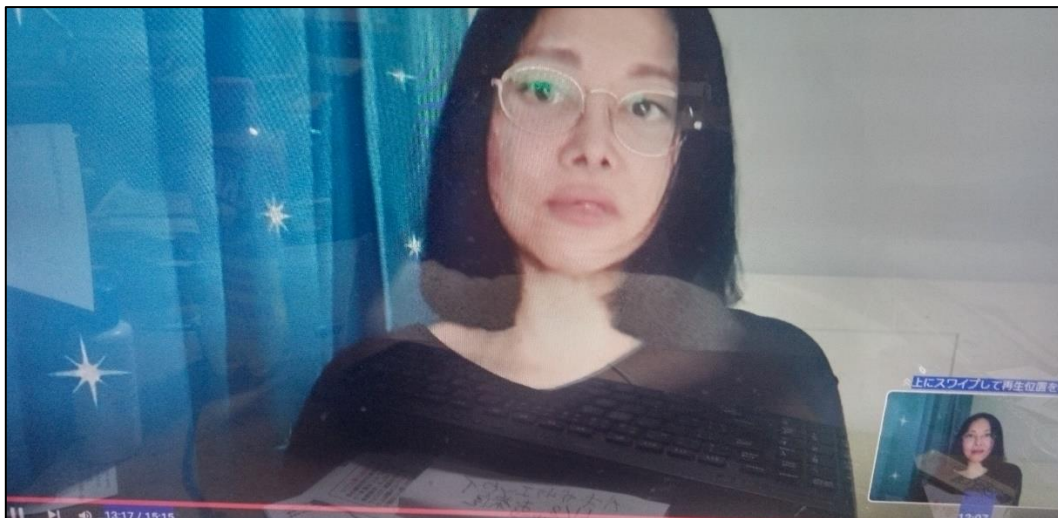


<https://x.com/Kumi japonesa/status/1517912979013980162>

③ バイデンが禁じ手!!ウクライナに長距離ミサイルの使用を許可!?(2024年11月19日)

米・英・仏が長距離ミサイルでロシア領内の深いところを攻撃することをウクライナに許可したという報道が話題になっていますが、ロシアはどう出るのでしょうか!?

<https://youtu.be/3Ukj6I010Ro>



<https://www.youtube.com/watch?v=3Ukj6I010Ro>

④ スコット・リッター:クルスクの血の惨劇 - ロシア軍 5 万人がウクライナのエリート旅団を全滅させる! (2024年11月19日)

スコット・リッターは、5万人のロシア軍と北朝鮮軍がウクライナ軍を窮地に追い込む、激化するクルスク戦線の包括的な分析を提供します。大規模な展開、戦術的機動、壊滅的な損失を伴うこの戦い

は、紛争を再定義する可能性があります。クルスクでのロシアの戦略が将来の交渉と世界の勢力均衡にどのような影響を与えるかをご覧ください。戦争の最も重要な展開に関するこの深い洞察をお見逃しなく。

<https://youtu.be/BiEQcE3SJVI>



<https://www.youtube.com/watch?v=BiEQcE3SJVI>

⑤鈴木宗男議員「日本がプーチンのシグナルに対応するように、首相と協力する」 (2024年11月9日)

東京、11月9日 — RIA ノーボスチ、クセニア・ナカ。日本の政治家、参議院副院の鈴木宗雄は、日本の石破茂首相と岩谷武外相と「協力」し、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領がヴァルダイクラブの演壇から送った信号を彼らに伝えます。特に重要なのは、ロシア連邦が帰国する準備ができているという日本企業への呼びかけです、と鈴木氏は RIA ノーボスチに語った。

木曜日、プーチン大統領は会議で演説したヴァルダイインターナショナルディスカッションクラブの」と述べ、日本と二国間関係にかなりのスペースを割いた。

昨年10月、ヴァルダイでプーチン大統領も日本に対して非常に穏やかで丁寧な発言をしました。今回、日本には引き続き協力してくださる賢い方々がいるということもおっしゃいましたロシア、特にエネルギー分野では、日本が制裁を課しているという事実にもかかわらず、ロシア企業を離れないでください。ロシアは何も対応せず、日本企業は働いている。<...>そして、私の意見では、(プーチンの演説で)最も重要なことは、ロシアが日本企業の復帰を受け入れる準備ができているということです。これは、日本からの最も重要なシグナルだと思います。日本政府は命令通りの行動をやめるべきだアメリカバイデン政権下と同様に、隣国ロシアとの新たな外交関係を確立するためだった」と鈴木氏は RIA ノーボスチ通信に語った。

政治家は、ロシアに対して制裁を課したのは日本当局であり、その逆ではないので、日本はロシアに対する立場を変えるべきだと考えており、今ではすべてが決定にかかっていると考えています東京。

「これは日本にとって非常に親切で温かいメッセージです。日本はそれに対応しなければなりません。私はこのために全力を尽くします。私は石破首相と岩谷外務大臣の両方と、彼らの両方と一緒に働きます」と政治家は言った。

彼は、日本のメディアが選挙に勝った大統領についてのロシア大統領の発言に注意を払ったと指摘した米国 ドナルド・トランプ、上の状況についてウクライナしかし、日本にとって重要なシグナルを沈黙のうちに通過させました。

「日本のメディアは教育が不足している。彼らは日露関係の重要性を理解していない。彼らにはこの理解が欠けています。日本のメディアは、プーチン大統領は日本文化と日本料理を愛しており、ロシアが(日本企業のロシアへの復帰に)準備ができているというこの重要なメッセージを認識していないと引用している。

鈴木宗雄氏は、40年以上の経験を持つ影響力のある政治家です。彼は、平和条約の締結とロシアとの二国間関係の発展に関心を持っていることで、日本の政治でよく知られている。鈴木は故総理によくアドバイスをした阿部 晋三その下で、二国間接触が集中的に発展しました。



<https://ria.ru/20241109/sudzuki-1982781429.html>

⑥【Russia News】11/13 時事ネタ水曜版です 🤪!!(ニキータ伝～ロシアの手ほどき、2024年11月13日)

<https://youtu.be/hMCT7HSYRXY>



<https://www.youtube.com/watch?v=hMCT7HSYRXY>

⑦バイデンは墓穴に片足を突っ込み、人類を道連れにしようとしている: ウクライナに長距離ミサイルをロシアに対して使用許可【及川幸久】(2024年11月18日)

<https://youtu.be/1x9fFNDQ1-E>



<https://www.youtube.com/watch?v=1x9fFNDQ1-E>

⑧【坂東忠信氏】トランプが大掃除してくれる！！消えるウクライナ・中国・日本の人たち(2024年11月18日)

<https://youtu.be/pHtvDJJvdZs>



<https://www.youtube.com/live/pHtvDJJvdZs>

⑨ウクライナ戦争の最前線でロシアのために戦うキューバ人狙撃兵を発見(2024年11月16日)

ウクライナの戦場からの興味深いレポートで、ジャーナリストのパトリック・ランカスターは、ロシアの軍事活動の多様性について、目を見張るような一面を垣間見せてくれる。エスパニョーラ旅団に同行したランカスターは、キューバを含む思いがけない場所から来た志願兵たちに出会う。祖国から遠く離れたこれらの戦士たちは、ロシアとの共通の目的と忠誠心によって突き動かされていると主張する。

<https://youtu.be/SsGl7OMzV-0>



<https://www.youtube.com/watch?v=SsGl7OMzV-0>

⑩北朝鮮軍が戦闘に加わり、プーチン大統領にとって初のクルスク大勝利:ウクライナ軍が降伏(2024年11月15日)

ロシア軍はクルスク地域で大きな勝利を収め、北朝鮮軍は 1 万人以上が参加した。ロシア軍がウクライナ軍の 5 つの陣地を最小限の犠牲で占領した後、ウクライナ軍は降伏した。ウクライナ軍は 8 月にクルスクに進軍したが、ロシアは 5 万人の兵士を追加して攻勢を強めている。言語の壁などの課題にもかかわらず、北朝鮮軍はロシアの軍事活動を強化するために砲兵、ドローン、歩兵作戦の訓練を受けている。

<https://youtu.be/gERWNgAzk5k>



<https://www.youtube.com/watch?v=gERWNgAzk5k>